特集「建設分野の魅力」第38回　県立篠山産業高生が体験学習

浸水被害を防ぐために建設が進められている地下貯留管整備事業の立坑を見学する篠山産業高生ら＝西宮市神祇官町

ＩＣＴ（情報通信技術）の活用や働き方改革の促進などが進み、かつての３Ｋ（きつい、危険、汚い）から新３Ｋ（給与、休暇、希望）へイメージが変わりつつある建設業。業界の今を感じ、進路選択に生かすことを目的に、兵庫県立篠山産業高校電気建設工学科建設コースの２年生12人が地元の道路建設現場で作業体験を行い、最新技術が投入されている地下貯留管整備事業も見学した。　（取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会）

未来につなぐ　つくるひと・まもるひと

現場で膨らむ将来の夢

意欲を持って楽しみつつ

最初の見学現場は、同校から約5キロ西にある「県道西脇篠山線」（丹波篠山市）。全区間1・2キロの整備事業のうち、池田建設（丹波市）が拡幅を担当する区間（200メートル）を訪れた。交通の円滑化、安全性の向上を望む地元住民の関心が高い事業だ。

現場では、道路幅を約2倍に広げるために山を削り、できた斜面を安定させる工事が進んでいた。作業着・ヘルメット姿の高校生たちが体験したのは、「法枠組み立て・据え付け」の作業。

職人の指導を受けながら、型枠を鉄筋に固定させる作業を体験する生徒たち＝丹波篠山市味間南

県道西脇篠山線（丹波篠山市）

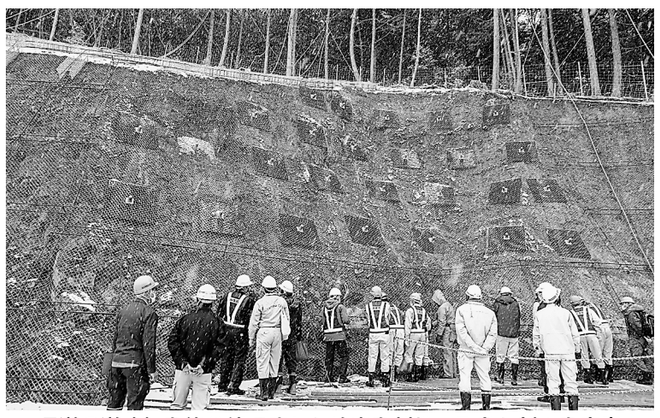
型枠の固定作業に挑戦

仕上げのモルタルを吹き付ける前に、下地となる骨組みを組み立てる作業だ。

高校生たちは軍手をはめて「ハッカー」という工具を持ち、U字の結束線をねじりながら型枠を鉄筋に固定させる作業に挑戦。最初こそ戸惑いの表情を浮かべていたが、職人にコツを教わりながら徐々に習得し、2人一組で助け合ったり、慣れてくると速さを競ったりしながら意欲的に取り組んだ。現場監督を務める池田建設工事部の菅井太郎さんは「楽しみながら挑戦する姿が見られてうれしかった。将来仲間として働いてくれる人がこの中から現れてほしい」と話した。

続いて西宮市へ移動し、市南部を流れる津門川沿川地域の浸水被害を防ぐため県が進める地下貯留管整備事業の現場へ。トンネルを掘削する「シールド工法」、地中で作業するための「ニューマチックケーソン（潜函）工法」により立坑（深度41メートル）と横坑（長さ1・7キロ）を掘り「川の下に新たな川をつくる」大規模事業について、大豊・ソネック・田村特別共同企業体の作業所長を務める三野章生さんが解説。街中でも24時間作業が可能な防音ハウス内を見学した生徒たちは、シールドマシンと遠隔監視システムなどの最新技術を用いて安全に工事を進める様子に感心しきりだった。

見学会に先立っては兵庫県職員が同校を訪れ、見学現場の概要説明や建設業の役割などを事前学習。各現場では、一人一人に配布された名刺を用いて、交換のマナーも習得した。また生徒たちは、現場の働き手には工法や資格について、県職員には公共事業の進め方や就職活動などについて熱心に質問をして理解を深めていた。



県道の道路幅を約2倍にするため山を削り、できた斜面を安定させる工事現場を見学した＝丹波篠山市味間南

地下貯留管整備（西宮市）

防音ハウス、最新技術を見学

遠隔監視システムなど最新の技術が導入され、安全に工事が進められている＝西宮市神祇官町

体験学習を終えて

土木の仕事で住民の役に　九鬼 祐輔さん

祖父と父が就いた建設業界を身近に感じ、土木施工管理技士の取得を目指している。建設機械に興味があり、ＩＣＴ建機による省力化にも関心があるので、今日は最新の機械を見学できてよかった。将来は丹波地域の住民の役に立てるような土木事業を現場で担いたい。

命や生活守る責任感じた　木戸口優太さん

手早く結束作業をしたり、クライマーのように斜面をロープでぶら下がったりする職人さんの仕事ぶりが格好よかった。普段見られない現場の内側に興味津々。作業を体験できて楽しかった半面、人の命や生活を守る責任の重い仕事と分かって身が引き締まった。

公共建物の見方変わった　西出 義生さん

現場実習では工具がだんだん使いこなせるようになってうれしかった。電気建設工学科は同学科を卒業した姉の助言で進み、最近は暮らしを支える道路や橋などの公共物に対する見方が変わってきたと感じる。高校で学んだことを生かして、将来は大工になりたい。

理想とする家づくり追求　永井 流星さん

学校の授業で学んだことを実際の現場で見られたので、理解が深まった。大きな現場を管理する人たちの姿はやっぱり格好いい。私の夢は１級建築士。人とコミュニケーションを図るのが得意なので、施主さんが理想とする家づくりを一緒に追求していけたらと思う。

ＰＲ